

# 環境経営レポート 2025

(対象期間:2024年度⇒2024年11月～2025年10月)

発行2025年12月7日

**SANSHIN**  
▶ production of the precision parts



®環境省

エコアクション21  
認証番号0000568

三鎮工業株式会社

# 目 次

【1】会社の概要	1ページ
【2】環境経営方針	2ページ
【3】環境経営目標の見直しについて	3ページ
【4】環境経営目標と実績	4ページ
【5】環境経営計画とその取組結果と評価	5ページ
【6】代表者による全体評価と見直しの結果	9ページ
【7】次年度の環境経営目標及び環境経営計画	10ページ
【8】環境関連法規への違反、訴訟等の有無	11ページ



# 【1】会社の概要

## (1) 事業所名及び代表者名

サンシンコウギョウ カブシキガイシャ

三鎮工業株式会社

代表取締役社長 ヤマダ ヒロシ  
山田 浩司

## (2) 事業所住所

本 社 〒205-0023 東京都羽村市神明台4-10-10

第二工場 〒205-0002 東京都羽村市榮町3-3-5 (2022年11月設置)

## (3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者	代表取締役社長	山田 浩司
担当者	環境管理責任者	山田 浩司 (兼任)
連絡先	電話番号	042-513-0718 (本社)
	FAX番号	042-513-0719 (本社)
	E-mail	info@sanshin-i.com
	ホームページURL	<a href="https://sanshin-i.com">https://sanshin-i.com</a>
	facebook	<a href="https://www.facebook.com/sanshinkogyo/">https://www.facebook.com/sanshinkogyo/</a>

## (4) 事業の内容

光学機器、空調機器、医療機器、自動車、カーナビ  
デジカメ、モーター等に使われる精密金属部品の挽物加工

## (5) 事業の規模

2025年10月決算	本社工場	第二工場	合計
従業員数	43名	12名	55名
敷地面積	1,652.90m <sup>2</sup>	1,883.25m <sup>2</sup>	3,536.15m <sup>2</sup>
建物面積	1,760.53m <sup>2</sup>	2,149.88m <sup>2</sup>	3,910.41m <sup>2</sup>
売上額(税抜)	1,620百万円	445百万円	2,065百万円
製品売上高	1,210百万円	409百万円	1,619百万円
切粉売上高	390百万円	36百万円	427百万円

※その他、材料・商品売上で19百万円

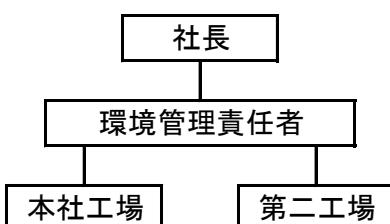
## (6) 認証・登録の範囲

全社 (本社工場・第二工場)

全活動 (金属機械加工)



## (7) 環境実施体制



## 【2】環境経営方針

### 環境経営理念

私たちは、エアコンや自動車等の小径精密切削部品を製造する事業活動において常に改善活動を行うことで省資源、省エネを推進し、時代と共に多様化するお客様のニーズに柔軟にお応えできるよう取り組んでまいります。

そして、皆様に「信用される会社」「必要とされる会社」であり続けられるよう努力を重ねてまいります。

### 行動指針

1. 私たちは、全ての事業活動において生じる、環境への負荷を低減するために環境経営システムを確立し、環境活動の継続的改善を行います。
2. 私たちは、全ての部門で二酸化炭素排出量の削減、購入電力の削減、廃棄物排出量の削減、水使用量の削減、化学物質使用量の削減、そして自らが生産・販売する製品の環境性能の向上及びサービスの改善について取り組みます。
3. 私たちは、環境に関する法律、規制、及び当社が合意するその他の要求事項を遵守し、地球環境との調和、並びに汚染予防に努めます。
4. 環境経営方針は、全ての従業員、及び当社に関わる人々に周知され、環境保全活動推進への意識を高め、よき地域住民として地域社会に貢献します。
5. 環境経営方針は、エコアクション21の環境経営レポートの一部として、広く一般に公表します。

制定 2006年1月16日  
改訂 2019年1月25日

代表取締役社長

山田 浩司



### 【3】環境経営目標の見直しについて

前回の審査を受け、環境経営目標値の算出方法の見直しを行った。

長年、月毎に原単位(売り上げ百万円あたり)にて数値を算出し、それを平均したもの目標としてきた。しかし、化学物質等毎月発生しないものがあつたり、月々の売上高にも波があるため、各月の数値に大きな乖離が生じてしまい、年間を通じて管理していくことが難しく、平均した結果も0の月数や月の売上高の増減に引っ張られてしまうことが問題であった。

そこで、月々累計にて原単位の数値を算出し管理していく方法へと切り替える。この方法にすることで、目標値や結果は年間総排出量等の原単位となり、単月の結果に左右されないものとなる。

- 原単位で目標を設定しているものについて、過去3年分遡り算出した結果を受け目標を再設定した

本社工場	項目	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 目標
1(1)	二酸化炭素排出量の削減 [kg-CO <sub>2</sub> /売上百万円]	7.07	10.25	7.46	7.00
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	774.40	953.31	855.6	766.65
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	6.37	5.29	5.23	6.30
3	水の使用量の削減 [m <sup>3</sup> ] ※実績値で設定	29.21	29.67	27.08	27.08
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	4.58	4.53	4.66	4.53
5	不適合品比率 [%]	1.29	1.12	1.45	0.60
参考	売上高(製品+切粉売上) [百万円]	137.41	94.98	108.88	130.00

※ 購入電力の排出係数 ⇒ 出光興産(株)のプレミアムグリーンプラス:0.000 kg-CO<sub>2</sub>/kWh

※ 売上高目標が2021年度に近いため、2021年度の実績より-1%にて目標設定

第二工場	項目	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 目標
1(1)	二酸化炭素排出量の削減 [kg-CO <sub>2</sub> /売上百万円]	-	1,127.29	750.82	525.58
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	-	2,491.90	1993.97	1395.78
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	-	6.83	7.98	6.78
3	水の使用量の削減 [m <sup>3</sup> ] ※実績値で設定	5.83	7.33	8.17	10.00
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	-	9.33	4.05	4.01
5	不適合品比率 [%]	1.61	1.55	0.68	0.60
参考	売上高(製品+切粉売上) [百万円]	0.50	13.39	20.56	30.00

※ 購入電力の排出係数 ⇒ 東京電力エナジーパートナー(株)の該当年度で使用していた係数

※ 売上高がまだ急増中のため、2022年度から2023年度の下がり傾向を参考に目標設定

全社	項目	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 目標
1(1)	二酸化炭素排出量の削減 [kg-CO <sub>2</sub> /売上百万円]	55.13	148.29	125.53	104.23
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	887.64	1,143.44	1036.41	884.61
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	6.35	5.48	5.67	6.39
3	水の使用量の削減 [m <sup>3</sup> ] ※実績値で設定	35.04	37.00	35.25	37.08
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	5.95	5.38	4.51	4.43
5	不適合品比率 [%]	1.31	1.22	1.25	0.60
参考	売上高(製品+切粉売上) [百万円]	137.96	108.37	129.44	160.00

※本社・第二工場の目標値より算出

## 【4】環境経営目標と実績

(◎) 目標達成 (○) 目標未達成だが  
昨年度より削減 (✗) 目標未達成  
かつ昨年度より増加

● 2017年度版ガイドラインに則った取りまとめ表にて算出した数値を基に、環境経営目標を設定している。

本社工場	環境経営目標	昨年度結果	目標値	結果	評価
1(1)	二酸化炭素排出量の削減 [kg-CO <sub>2</sub> /売上百万円]	7. 46	2021年度の-1%以下 7. 00	目標値-9.6% 6. 33	◎
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	855. 60	2021年度の-1%以下 766. 65	目標値-1.1% 757. 93	◎
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	5. 23	2021年度の-1%以下 6. 30	目標値-23.2% 4. 84	◎
3	水の使用量の削減 [m <sup>3</sup> /月] ※実績値で設定	27. 08	2023年度以下 27. 08	目標値+2.5% 27. 75	✗
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	4. 66	2021年度の-1%以下 4. 53	目標値+3.4% 4. 68	✗
5	製品及びサービスの向上 不適合品比率[%]	1. 45	2023年度全社結果の半分以下 0. 60	目標値+40.0% 0. 84	○

※ 購入電力の排出係数 ⇒ 0.000kg-CO<sub>2</sub>/kWh(出光興産株のプレミアムグリーンプラス)

第二工場	環境経営目標	昨年度結果	目標値	結果	評価
1(1)	二酸化炭素排出量の削減 [kg-CO <sub>2</sub> /売上百万円]	750. 82	2023年度の-30%以下 525. 58	目標値-61.2% 204. 12	◎
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	1993. 97	2023年度の-30%以下 1395. 78	目標値-2.8% 1356. 22	◎
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	7. 98	2023年度の-15%以下 6. 78	目標値+1.2% 6. 86	○
3	水の使用量の削減 [m <sup>3</sup> /月] ※実績値で設定	8. 17	2023年度より増員で試算 10. 00	目標値-8.3% 9. 16	◎
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	4. 05	2023年度の-1%以下 4. 01	目標値+25.8% 5. 05	✗
5	製品及びサービスの向上 不適合品比率[%]	0. 68	2023年度全社結果の半分以下 0. 60	目標値+71.6% 1. 03	✗

※ 購入電力の排出係数 ⇒ 0.408kg-CO<sub>2</sub>/kWh(東京電力エナジーパートナー株)

全社	環境経営目標	昨年度結果	目標値	結果	評価
1(1)	二酸化炭素排出量の削減 [kg-CO <sub>2</sub> /売上百万円]	125. 53	本社・第二目標値より算出 104. 23	目標値-52.6% 49. 41	◎
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	1036. 41	本社・第二目標値より算出 884. 61	目標値+0.4% 888. 24	○
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	5. 67	本社・第二目標値より算出 6. 39	目標値-17.4% 5. 28	◎
3	水の使用量の削減 [m <sup>3</sup> /月] ※実績値で設定	35. 25	本社・第二目標値より算出 37. 08	目標値-0.4% 36. 91	◎
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	4. 51	本社・第二目標値より算出 4. 43	目標値+2.9% 4. 76	✗
5	製品及びサービスの向上 不適合品比率[%]	1. 25	2023年度全社結果の半分以下 0. 60	目標値+48.3 % 0. 89	○

計算根拠※ 電力の排出係数 ⇒ 本社(出光):0.000 kg-CO<sub>2</sub>/kWh／第二(東電):昨年度0.376 今年度0.408 kg-CO<sub>2</sub>/kWh

- ◆ 二酸化炭素総排出量 : 101,140.41 kg-CO<sub>2</sub>
- ◆ 購入電力総量 : 1,818,333.00 kWh
- ◆ 廃棄物総排出量(有価物以外) : 10,811.00 kg(一般廃棄物:5,006.00 kg ／ 産業廃棄物:5,805.00 kg)
- ◆ 水の総使用量 : 443 m<sup>3</sup>
- ◆ 化学物質総使用量 : 9,750 kg
- ◆ 原単位で使用する売上高は、製品+切粉売上ののみ : 2,047,128千円

# 【5】環境経営計画とその取組結果と評価

## 1(1)、二酸化炭素排出量の削減

### ◎ エコドライブ・安全運転

食堂に個人目標を掲げ、社用車を利用する人にはエコドライブ・安全運転を実施してもらった。また、改善提案により4月からは納品時には『お先にどうぞ』を車の背面に付けることで、後ろの車に気を取られずに安全運転が出来る仕組みを整えた。



### ◎ 冬以外の給湯器オフ活動

今年度も継続して『冬以外の給湯器リモコン電源OFF』を各工場で実施。

本社では、昨年度試してみた『冬でも基本OFF』に取り組んだ。1F工場の手洗い場はその場にリモコン電源があるため、お湯で手を洗いたい場合には本人がオンにするシステムである。その結果、1ヶ月の請求最小量を下回り、1年を通じて2ヶ月に1回の請求をキープし、34.7%の削減に成功した。

第二工場は昨年度同様、7月～10月において電源OFFを実施し使用料0m<sup>3</sup>を達成。しかし、総量としては増加してしまった為、来年度は“暖かくなり始めたら早めに電源OFFが出来る仕組み”を作つてみようと思う。

### ◎ その他電力に関する活動

こちらは1(2)の方でまとめて評価する

**評価** 上記取り組みにより、目標を達成。今年度に関しては電力の部分での削減も関係しているが、こちらは次項で触れる。ガソリンとガスに関しては、削減活動として新たに出来ることが無くなりつつあるが、第二工場のガス電源OFFのタイミング等考えることで、無理の無い範囲であと一步削減が可能だと考えている。

## 1(2)、購入電力の削減

◎ 本社工場は出光興産(株)のプレミアムグリーンプラス(旧称:プレミアムゼロプラン)を継続利用しているため、再生エネルギーを活用した電気(右下図参照)を利用することで、電力消費による二酸化炭素排出量 0 kg-CO<sub>2</sub> を実現している。ただし、電力のムダ遣いを抑制するために、購入電力の管理を実施している。

◎ 第二工場は立ち上げ当初、出光興産(株)が新規契約を中止していたため、東京電力エナジーパートナー(排出係数:0.376 kg-CO<sub>2</sub>/kWh)と契約していたが、2024年11月に再度問い合わせたところ、2025年4月から契約変更となった。

よって、4月以降は本社工場、第二工場ともに電力消費による二酸化炭素排出量 0 kg-CO<sub>2</sub> を達成した。

また、契約の際に二酸化炭素排出量0プランが、再エネ(電源構成が全て再生可能エネルギー電気)と、証明書を用いた実質再エネ(電源構成に再生可能エネルギー電気以外が含まれてしまう)の2種類があることを教えて頂いたが、多少割高でも真の意味で二酸化炭素排出量0の再エネプランの方を選択した。



### ○ デマンド監視装置による節電

これは本社のみの取り組みである。

昨年度9月は猛暑ということもあり、対応しても対応しても警報が鳴りっぱなしになってしまい、デマンド設定を215kWから235kWに上げた。これは今年度の機械稼働率上昇を見込んでの設定だったが、今年は一度も鳴ることが無かった。それでも、ここ三年の機械稼働率推移55%→57%→64%に対し、最大需要電力としては226kW→223kW→228kWと微増で抑えることが出来ている。

来年度はさらに機械稼働率が高まってくるが、単位量当たりの目標値をクリアできるように継続して取り組んでいく。

## ◎ 営業日の調整(機械稼働予定表・土日出勤・営業回り日 等)

昨年度プラスアップした『機械稼働予定表(生産計画)』に合わせ、在庫管理にも力を入れる、業務部1人ひとりの在庫量に対する意識向上を図ることで、過剰に機械を動かしてしまったり、余剰在庫を抱えてしまったりすることが減ってきてている。また今年度から、取引先より受注見込み情報を早めにもらえるよう働きかけており、得た情報を踏まえた加工機、加工数量、加工日数の決定が出来ている。

これらの総合的な取り組みによりレベルの高い生産計画が立てられるようになってきており、営業日の調整は順調に進められている。

## ○ エアコンの設定温度の順守

本社は2022年、2階のエアコンを省エネタイプに一新する際、エアコンの配置を見直すことで上手くやっていたように感じていたが、昨年度の改築工事後に少しずつ問題が出始めた。部署間での体感温度の違いと、風が直接体に当たる当たらない問題である。そのため、エアコンに簡単に風向が変えられる風よけバーを設置し、小型サーキュレータや壁掛け扇風機を設置。1階でもエアコンの効きが悪い(風が回らない)場所があり、そこには追加で扇風機を設置。結果としては、夏の西日が強い時間帯を除き設定温度を順守できていた。

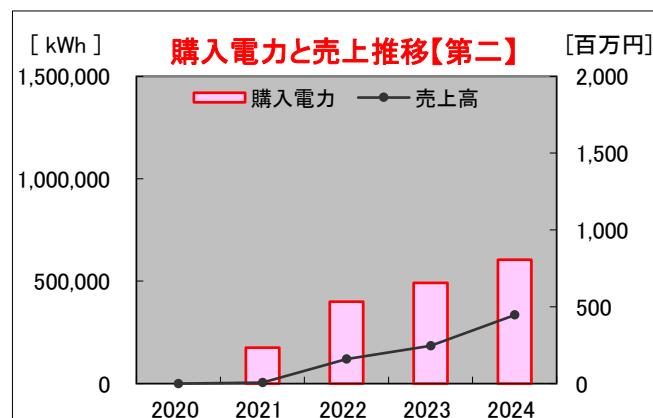
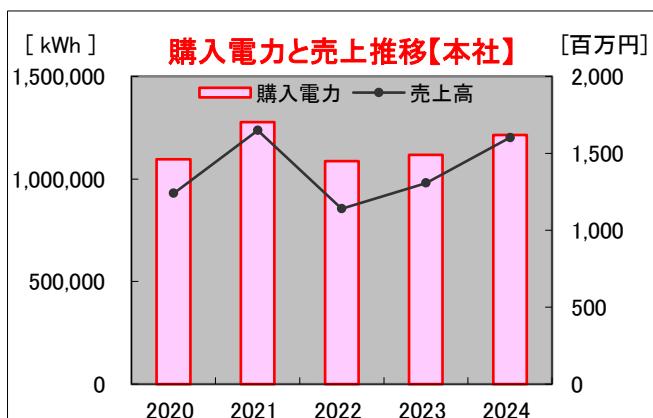
第二工場の1階は、年度開始時の冬は暖房設定20℃としていたが、稼働機が増えたことで室温が上がり、来年度は本社同様通年で冷房設定となる見込み。2階は広さに対して人や物が少なくエアコン効率が悪い面が残っており、夏の設定温度を1°C見直し27°Cに下げ、逆に冬は設定温度を1°C下げた21°Cで問題なくできている。



**評価** 下に直近5年の購入電力と売上(製品+ダライ粉)の推移を示す。長年集計してきた結果、当社は工場に機械が目一杯設置され稼働している状態であれば、購入電力と売上(製品+ダライ粉)がほぼ連動する。

本社工場においては、今年度は売上の伸び(22.5%増)に対し購入電力の増加を抑える(8.6%増)ことが出来ている。営業日の調整や、エアコンの設定温度順守が出来たことによる結果である。

また第二工場においては、設置機械台数や稼働機械台数が伸びている真っ最中ではあるが、本社同様しっかりと取り組んだ結果、売上80.7%増に対し購入電力22.9%増となっており、非常に良かった。



## 2. 廃棄物等排出量の削減

### ◎ ゴミの分別の徹底

本社は業務部が中心となってゴミの分別を行っているが、分別方法の再教育を実施したところ改善提案が出され、外国人でも分別しやすく、見た目もスマートなゴミ捨て場所へと進化した。全て壁に貼られていた分別例の写真も、カゴと一体化することで、より捨て場が分かりやすくなり、仮に間違えていても廃棄する際にすぐ気付けるようになった。

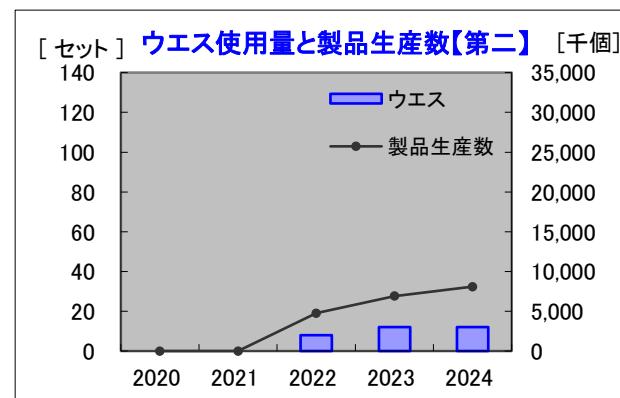
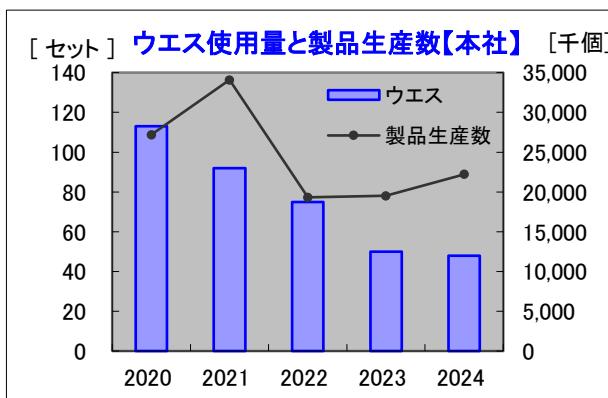
第二工場は、紙コップを利用していたが、本社同様マイマグカップを開始。さらに仕出し弁当屋さんとも契約し、持ち込みのお弁当ゴミを削減。



### ◎ ウエスの使用枚数の抑制

本社は一昨年度、製品生産数の減少に合わせウエスの2週に1回の納品数を4セットから3セットにし、さらに昨年2月以降は2セットに減らし、この4年間で92→75→50→48セットと大幅に削減が進んだ。ここが限界値だと考えているので、なるべくキープしていく。

第二工場においては月1回の最低数1セットのみで回している。製品数量はドンドンに増えていく見込みだが、キープできるよう取り組みを継続する。



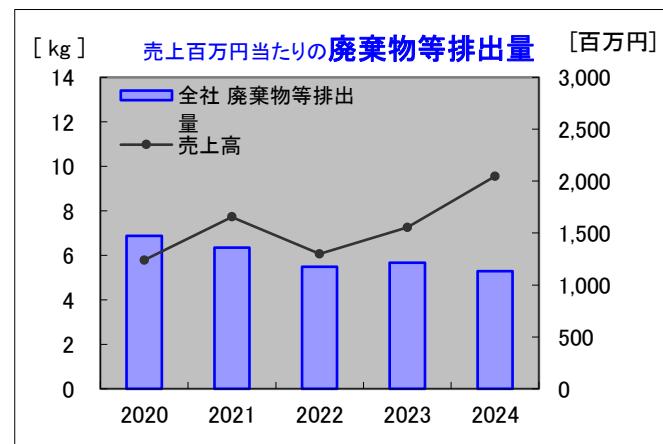
### ○ 廃液の削減

第二工場では5月に洗浄機の修理があり、その際に洗浄液の総入れ替えが行われ、一時的に廃液が増加したが、それを除けば両工場とも洗浄液の交換のタイミング等が守られ、しっかりと取り組めている。その結果、単位量当たりの廃液量が削減できている。来年度は、本社工場と第二工場の洗浄担当者の入れ替えを行う予定であり、違う人が担当することで何か削減に繋がる発見があることを期待している。

**評価** 廃棄物排出量の削減は、食堂に掲示した個人目標をしっかりと意識して行動することで目標達成に繋がると考えているが、今年度は個人評価の結果を見ても良く出来ていた。結果、売上百万円あたりの目標値を達成することが出来た。

しかし、まだまだ改善の余地は残っているので、上を目指して取り組んでいく。

またボランティア活動として、本社工場は分別したキレイな段ボールや雑紙を地域のジュニアバレーチームに資源として寄付をし、第二工場においては週2回公道の落ち葉やゴミ拾いも実施している。



### 3. 水の使用量の削減

#### ◎ 個人目標の設定・掲示／達成度確認

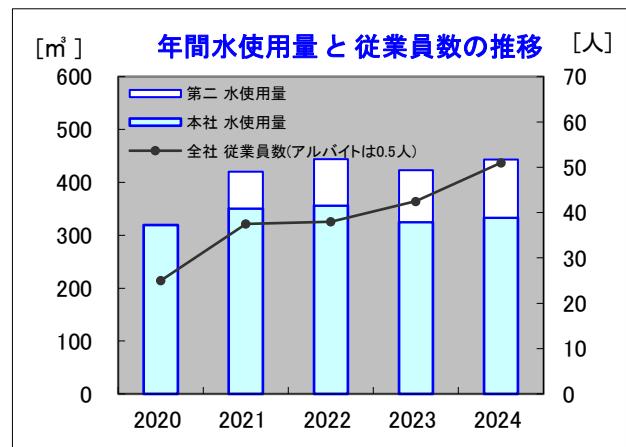
今年度も個人目標の掲示を継続し、節水に取り組んだ。目標に掲げられた内容はほぼ達成されていて問題なし。

#### － 製造工程(バレル作業)での使用水のムダ防止

本社工場のみ取り組みであるが、今年度からバレル製品を外注することが決まり、取り組み中止。

**評価** 本社工場でもバレル作業が無くなり、水に関してはついに従業員の普段使いの水のみとなった。手洗い、トイレ、食器洗い等、1人ひとりが水をムダにしないことを意識することで目標を達成した。

第二工場では、男性小便器の定期自動洗浄を止めることで節水が見込めるが、男性従業員数や使用回数を考慮し、今年度もまだ止めずに1人ひとりの努力で対応している。



### 4. 化学物質使用量の削減

#### ◎ 使用時以外は洗浄機の電源をおとす(蒸発抑制)

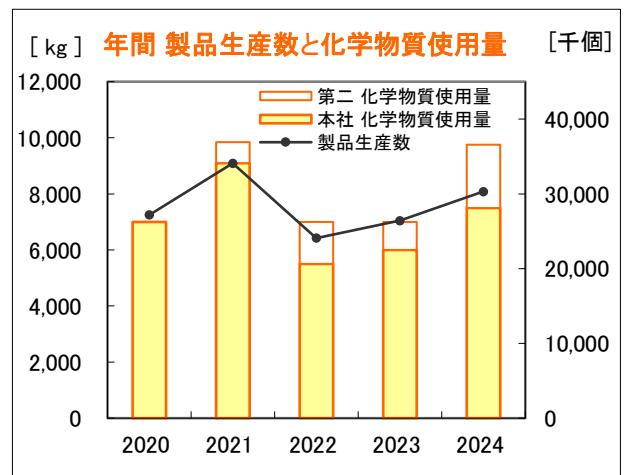
両工場とも電源をオフにすることは徹底されていた。

#### ◎ 廃液を蒸留し再利用する

両工場とも廃液を蒸留し、再利用していた。

**評価** 上記2点以外にも日々の点検表を用いてチェックすることで、人的ミスを防止し、漏洩等によるムダが出ないような対策が取られている。ただ、廃液欄にも記載したが、第二工場では5月に洗浄液を入れ替えての修理が行われたため、化学物質使用量が一時的に増加し、結果としては未達成。

もし、この5月の使用量が通常量であれば、-2.4%となり目標は達成できていた。



### 5. 製品及びサービス向上（不適合品比率を抑える）

#### ○ 初回品NGの赤紙枚数を40件/年以下にする

昨年度、製造由来の赤紙が259件/年と増加してしまったため、初回品NGの赤紙に絞って目標を設定。昨年度は85枚だったので、半減以下の目標であるが、結果は61件で未達成。NGの原因分析はしっかりとできているので、来年度に引き継ぐ。

#### ○ 不良率90%超ロット20件/年以下にする

昨年度47件。昨年度に異常が多かった製品に的を絞り点検を強化することと、新規品の立ち上げの際に起こりうる問題を網羅的に検討し、加工担当者へ伝達することで改善を狙ったが、結果は46件で未達成。特に新規品についてもっと掘り下げていく必要を感じたので、来年度の取り組みとして対応していく。

#### ○ 重点対策品の不良率を昨年比40%以下に抑える

製造と品証で協力し、重点対策品4点の対策実行と効果確認のサイクルを出来るだけ早く回すよう取り組み、選別状況のまとめも即日実施し共有した。結果、通年では目標値を達成できなかったが大きく改善した。最終月の単月だけみれば、4点中3点が目標値をクリアしている。こちらの取り組みも来年度継続する。

	2023年度			2024年度		
	本社工場	第二工場	全社	本社工場	第二工場	全社
不良数	284,728	48,493	333,221	191,545	88,484	280,029
製作数	19,551,499	7,035,718	26,587,217	22,790,340	8,581,654	31,371,994
不適合品比率	1.46%	0.69%	1.25%	0.84%	1.03%	0.89%

**評価** 不適合品比率(赤紙の多さ)は会社にも環境にも良くないことであり、最優先で改善に取り組んでいる。少し高く設定した目標には達しなかったが、製造部と品質保証部がタッグを組み、ポイントを絞って対応することで大幅な改善が見られている。来年度こそ0.6%以下/年という大きな目標が達成できるよう努めていく。

## 【6】代表者による全体評価と見直しの結果

今年度は、短期ではあったが大きな仕事を獲得し、過去最高売上を更新した。さらにNC自動旋盤を7台増設することで加工機保有台数が100台を超える、従業員もアルバイトも含めると50名を超えた。このように過去最高記録を更新しても、残業時間や休日出勤数が増えることなく、営業日の調整を含めた生産管理が上手くいっていることが分かる。従業員が私生活もしっかり楽しみつつ、仕事に取り組める環境が整ったことは非常に良いことであり、従業員が健康で長く働く企業となるべく、健康優良企業の銀の認定や健康経営優良法人も取得した。全ての面で会社が大きく成長していることを感じる。

エコアクション21の取り組みも丸20年となるが、取り組めることが尽きそうで尽きない

まず、第二工場の二酸化炭素排出量0電気への乗り換えも、エコアクション21を継続しているからこそ常に頭の片隅に残っており、達成できたと思っている。世の中ではサステナビリティの開示が求められ始めているが、当社は大企業のScope3としていつでも開示対応が可能な上、排出量も限りなく抑えられているため、今後はより良い位置に上がっていくと確信している。

また、会社としてDXにも力を入れている。Excelで行っていた機械稼働予定表について、かなりイメージが固まってきたため、来年度はこれを踏まえ既存の生産管理システムの改造を進め一体化を図る。よりレベルの高い管理が可能となり、抜けやミスも0に近付くと考えている。今年度の平均機械稼働率は本社工場で64%、第二工場で41%であるので、稼働が忙しくなる前にシステムの定着を進め、安定した生産管理体制を整えたい。

さらに、洗浄液の廃液についても「当社の廃液は再生できない」と考えてしまっていたが、有価物としての回収可能性が出てきている。現在、廃液の分析を進めもらっているが良い結果が出れば、産業廃棄物の削減につながる。

以上のように、まだまだ取り組めることは多くあり、今後もきっと出てくることと思う。私は今冬で息子に会社を託す決心をしたが、今後はその新しい目で、新しい観点で、新しい改革を進めて欲しいと思う。

## 【7】次年度の環境経営目標及び取組内容

### 『環境経営目標（全社）』

※ 購入電力の排出係数 ⇒ 出光興産㈱のプレミアムグリーンプラス:0.000 kg-CO<sub>2</sub>/kWh

本社工場	項目	2024年度 実績	2025年度 目標	2026年度 目標	2027年度 目標
1(1)	二酸化炭素排出量の削減 [kg-CO <sub>2</sub> /売上百万円]	6.33	6.27	6.20	6.14
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	757.93	750.35	742.85	735.42
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	4.84	4.79	4.74	4.70
3	水の使用量の削減 [m <sup>3</sup> /月] <small>※実績値で設定</small>	27.75	27.61	27.47	27.34
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	4.68	4.63	4.59	4.54
5	不適合品比率 [%]	0.84	0.60	0.55	0.50
参考	売上高(製品+切粉売上) [百万円]	1,601	1,500	1,575	1,650

- 売上が少し減少する見込みだが、排出量を削減できるように工夫していく

第二工場	項目	2024年度 実績	2025年度 目標	2026年度 目標	2027年度 目標
1(1)	二酸化炭素排出量の削減 [kg-CO <sub>2</sub> /売上百万円]	204.12	0.40	0.39	0.38
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	1,356.22	1,288.41	1,275.52	1,262.77
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	6.86	6.79	6.72	6.66
3	水の使用量の削減 [m <sup>3</sup> /月] <small>※実績値で設定</small>	9.16	10.00	11.00	12.00
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	5.05	5.00	4.95	4.90
5	不適合品比率 [%]	1.03	0.60	0.55	0.50
参考	売上高(製品+切粉売上) [百万円]	445	500	560	620

- 機械の稼働率が上がり、各排出量の総量は増加する見込みだが、上昇率を抑えることで削減を狙う

全社	項目	2024年度 実績	2025年度 目標	2026年度 目標	2027年度 目標
1(1)	二酸化炭素排出量の削減 [kg-CO <sub>2</sub> /売上百万円]	49.41	4.80	4.68	4.57
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	888.24	884.87	882.57	879.45
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	5.28	5.29	5.26	5.23
3	水の使用量の削減 [m <sup>3</sup> /月] <small>※実績値で設定</small>	36.91	37.61	38.47	39.34
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	4.76	4.72	4.68	4.64
5	不適合品比率 [%]	0.89	0.60	0.55	0.50
参考	売上高(製品+切粉売上) [百万円]	2,047	2,000	2,135	2,270

- 本社工場・第二工場の見込みより算出したが、全社で見ても削減する方向となっている

- 水の使用量のみ実績値で捉えているため、従業員の増加に伴い微増としている

### 『取組内容』

1~4の項目については、個人目標の達成に向けて1人ひとりが行う小さな努力の積み重ねと、決められたルールを守ることによって会社としての目標達成を目指す。さらに、ゴミの分別レベルが落ちてきていかないか等、基本レベルを高い水準で維持できるようチェックを忘れずに行っていく。

また、5の不適合品比率削減についてだが、目標は達成できなかったものの大幅な削減には成功しているため、引き続き製造部と品質保証部が協力して取り組むことで目標達成を目指す。

## 【8】環境関連法規への違反、訴訟等の有無

確認項目		遵守結果
法律違反の有無	1.廃棄物の処理および清掃に関する法律	2025年12月現在違反無し
	2.羽村市美しいまちづくり基本条例	2025年12月現在違反無し
	3.都民の健康と安全を確保する環境に関する条例 (騒音規制法・振動規制法)	2025年12月現在違反無し
	4.東京都火災予防条例(消防法)	2025年12月現在違反無し
	5.化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	2025年12月現在違反無し
	6.特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	2025年12月現在違反無し
	7.使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律 (小型家電リサイクル法)	2025年12月現在違反無し
	8.使用済自動車の再資源化等に関する法律 (自動車リサイクル法)	2025年12月現在違反無し
	9.フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 (フロン排出抑制法)	2025年12月現在違反無し
	10.顧客要求事項(RoHS指令, REACH規制等)	2025年12月現在違反無し
訴訟の有無	環境関連訴訟	2025年12月現在違反無し

※関係当局よりの違反などの指摘は、2006年1月の認証・登録以降ありません。

